



富山薬窓会首都圏支部

目 次

| | | |
|---|------------------------|----|
| 支部長ごあいさつ | (60、S48年卒) 中西 憲幸 | 1 |
| 総会での話題提供①「消化性潰瘍との半世紀に近いお付き合い — 不思議なめぐりあわせ」 | (58、S46年卒) 村上 学 | 2 |
| 総会での話題提供②「商社と医療関連ビジネス」 | (83、H8年卒) 平岡 良隆 | 2 |
| 特別寄稿「東日本大震災に遭遇して」 | (58、S46年卒) 高畑 廣紀 | 3 |
| 私のホールインワン人生白書 | (47、S35年卒) 伊勢谷篤弘 | 4 |
| はとバス観光懇親記 | (48、S36年卒) 船場 定信 | 5 |
| 「継続」と「絆」は力なり!! 三金会は牛タンと駄弁る会 .. | (59、S47年卒) 井本 直樹 | 6 |
| スキーは楽しい!! | (59、S47年卒) 清水 善行 | 7 |
| スタート・オーバー | (59、S47年卒) 松本茂外志 | 7 |
| 20年の回顧 | (77、H2年卒) 紺谷 徹 | 8 |
| アメリカ留学 | (84、H9年卒) 木村 徹 | 9 |
| 勝手に世界ランキング | (84、H9年卒) 膝附 由香 | 10 |
| CROをご存知ですか? | (85、H10年卒) 川邊 香代 | 12 |
| ゴルフクラブ便り | (55、S43年卒) 柿崎 直和 | 12 |
| 平成23年度首都圏支部活動報告・資産状況・支部役員 | | 14 |
| 平成23年度会計報告、平成24年度予算(案) | | 15 |
| 平成23年度 支部年会費納入者一覧 | | 16 |
| 編集後記 | | 18 |
| 平成24年度定期総会開催案内及び会場交通案内 | | 19 |



新時代の薬剤師に求められること

首都圏支部長(60、S48年卒) 中西 憲 幸

平成23年度は大震災で明け暮れた年でした。夏場の電力不足を節電で乗り切りましたが、その後も駅構内や電車の中の蛍光灯は間引きされたままで、当初は薄暗く感じましたが、今ではこの明るさに慣れてしまいました。緊急地震速報にも震度3程度の地震にも驚かなくなり、地震に免疫がついてしまいました。地震から逃れることはできないので、どのように地震と共生するかが課題です。

春に6年卒の薬剤師が誕生しました。今年度は診療報酬の改正年ですが、診療報酬改正の中身を見ると薬剤師に期待される項目がよくわかります。在宅医療、薬剤服用歴管理、後発医薬品推進、緩和ケアへの参画、医療安全対策への参画、病棟薬剤業務に関し診療報酬が加算され、算定基準が明確に示されています。

テクニシャンとしての薬剤師から、チーム医療で活躍できる薬剤師が求められています。そのキーワードはコミュニケーションです。チーム医療では薬剤師は医師、看護師、ヘルパーやケアマネジャーと意思疎通を図ることが求められています。在宅では患者さんの立場に立って、医療従事者として患者さんと会話できる能力が必要です。薬局のなかでやっている調剤業務を患者さんの自宅で行うのが在宅業務ではないと思っています。在宅の患者さんは単なる服薬指導を求めています。在宅で患者さんの顔色や動作を見て、患者さんと向き合うことから薬剤師の仕事は始まると思っています。

一方で、特定看護師が検討され、投薬の一部が認められる可能性もあり、薬剤師が病棟や在宅で頑張らないと薬剤師は調剤業務のテクニシャンに留まることになります。6年卒の薬剤師に期待することは大ですが、OBの我々が新人薬剤師をサポートしなければ、彼らは育ちません。我々の責任も重大です。

昨年度の総会は69竹内誠さんから創薬の苦労話を聞き、68木村友泉さんからリンパマッサージによる美顔術を実演で教えてもらいました。木村さんの美貌をみるとその効果は実証されており、おじさんたちの目は輝いていました。

今年は68村上さんから新薬開発の話を、63平岡さんからは刺激的な話を聞かせていただきます。薬多津三金会(俗称三金会)は3年目に入りました。詳しくは69井本さんの原稿をお読みください。最後に予算のことについて触れさせていただきます。昨年の総会で質問されましたが、最近では毎年預金から100万円ずつ取り崩しています。このままでは早晚資金は枯渇してしまいます。理由は銀行預金の利息がほとんどないこと、株式を保有することができなくなったため配当金がなくなったことです。対策に妙案はありませんが、支出は出来るだけ切り詰めるとともに、年会費を多くの人からいただくことにあります。年会費の値上げを検討しましたが、今年は見送る代わりに年会費を1,000円から1,000円以上に変更します。この主旨をよくご理解いただき、ご協力をお願いする次第です。

話題提供①

消化性潰瘍との半世紀に近いお付き合い —不思議なめぐりあわせ

(㉟、S46年卒) 村上 学

富山大学の4年次の特研で、名市大より和漢薬研究所へ赴任された渡辺和夫教授の教室の門をたたいて以来、自分の研究生生活は、エーザイ入社後の37年も含めて、消化性潰瘍一筋であった。これは極めて異例な人生であったに違いない。振り返れば、富山大学の多くの先輩、同窓生、同僚の支えがあり、家族の力添えがあったからこそ続けられた研究生生活であったと思う。感謝である。

1970年4月、私と仲間4名が、欧州帰りのハイカラで人気を博していた木村正康教授の薬理研究室を横目に、生物試験部門に入りそれぞれが渡辺先生の研究への厳しい特訓を受けた。先生のメインテーマである「実験的消化性潰瘍モデル」の研究を始めたのが、私の人生を決定付けた。

渡辺教室は貧乏教室であったため、実験器具は全てそれぞれが自作しテーマをこなしていった。研究は、創意工夫が生命であり、最小限の研究費があれば出来ることを教えられた。企業とNIH(米国衛生研究所)で驚いたことは、研究費が潤沢にあり実験器具も使い捨てが当たり前であったことである。もったいないと思う反面、これが経済を支えているとの説明で、妙に納得したものである。今はどこの企業も研究費が削減されているが。

エーザイに入社し、粘膜防御薬のセルベックス、プロトンポンプ阻害薬のパリエット開発の一端を担えたことは私の研究生生活で最高の果実であった。

エーザイ入社後の1972年頃は、消化性潰瘍は再発・再燃を繰り返す難治性疾患とされ、抗潰瘍剤開発の黎明期であった。特にヒスタ

ミンH2受容体概念に基づき開発されたシメチジンが世に出る直前の時期であり、H2RA開発に世界の製薬企業がしのぎを削り始めていた。1974年、時代錯誤といわれながらも粘膜防御薬(テーマ略号AUT)の開発を、また、H2RA開発が一段落した1984年、20社以上が参入しているPPI(テーマ略号SHKA)開発を社内の攻撃を受けながらもガムシヤラに進めた。いずれのテーマも、“アウト”、“お釈迦”と揶揄されながらの社内推進であったが、チームの総合力で医薬品として完成を見た。

その間、時代は動き、Marshalらが胃粘膜からピロリ菌の単離に成功し、1994年ついに消化性潰瘍は感染症であるとまで結論付けられてしまった。その時点で、実質的な消化性潰瘍の研究は、基礎・臨床ともに終焉を迎えたのである。そして、パリエットの特許が満期を1年後に控え、自分もエーザイの定年を迎えた。なんとという不思議なめぐり合わせであったかと感慨深い。

家族を伴ってのNIHへの留学を通していろいろな意味での米国の底力と恐ろしさ、日本の美しさを実感できたことは何よりも自身の大きな糧となった。

定年を迎えて3年、井の中の蛙であったと反省しつつ、今は神戸大学消化器内科に拠点を持つNPO法人消化器健康医療研究機構の事務局として疫学調査、臨床研究を、またゴルフやテニス、菜園と少しは忙しい筑波での生活を楽しんでいる。孫たちが成人を迎えるまで元気でいられればと思う日々である。

話題提供②

商社と医療関連ビジネス

(㉠、H8年卒) 平岡 良隆

原油や鉄鉱石など資源価格の上昇や、新興国需要の取り込みを追い風に業績好調な商社

業界ですが、その実態は諸先輩方が決断した10年以上も遡る先行投資が結実した姿であり、若手社員やそれらの関連ビジネスに従事していない社員にとっては、あまり実感のない好業績であることも事実です。

古くは1960年代の「商社斜陽論」、80年代には「商社冬の時代」として世間的にも揶揄されてきたように、資源需要の急変や新興国の自立成長がいつ起ころうとも不思議ではなく、いずれの商社も次代の成長分野へ積極的な取組みを行っています。

今回は、伊藤忠商事の事例を中心に商社と医療関連ビジネスを題材に話題提供をさせていただきます。

なぜ医療関連ビジネスなのか？

それは世界的な視点で見た場合、製薬産業は規制当局の価格抑制圧力や近年の金融不安にも係らず、売上高ペースでは1980年代から年平均成長率約10%という驚異的な成長を続けており、金融、石油・ガスに続き3番目に大きな産業セクターとして無視できない存在感があるからです。

また国内に目を向けると、平成22年に閣議決定された新成長戦略～「元気な日本」復活のシナリオ～では、ライフ・イノベーションによる健康大国戦略として、医療・介護・健康関連産業が成長牽引産業と位置付けられ、製薬産業のみならず医療関連ビジネスへの注目度が高いことも商社としては見逃せません。

さて、私自身も最初は製薬会社（正確には兼業メーカーの医薬事業部）に就職し比較的平凡な人生かと思いきや、まさか商社へ転職することになるとはその時まで予想していなかった訳ですが、正直言って入ってビックリ、見てビックリ、こんな仕事があるの!？という毎日を過ごしています。

当日は伊藤忠商事の取組み事例の紹介を中心に、少し脱線も交えまして皆様が普段あまり見聞きする機会の少ない“刺激的な”話題

を提供できれば幸いです。

(伊藤忠商事株式会社)

特別寄稿

東日本大震災に遭遇して

(58、S58年卒) 高畑 廣 紀

3月11日の東日本大震災から間もなく1年を迎えようとしています。雨水も過ぎたのに、仙台は今日も雪模様で今年は東北に移り住んでから最も寒い冬の様に感じられます。

1年前に、M9.0というかつて経験したことのない巨大地震が東北太平洋沖に発生し、それに伴う大津波、ライフラインの壊滅的な被害、そして福島原子力発電所の災害により、東日本全体が社会的に大混乱に陥るという未曾有の災害がもたらされたことはまだ記憶に新しいところです。私はたとえば、発生当時、職場にいて激しい揺れがあったものの、免震構造の建物であったためさほど被害も無く、地震の規模など知る由もなく、やれやれという感じであった。ところが、自宅マンションに戻るとありとあらゆる物が倒れていて状況は一変しました。ライフラインの復旧に予想以上の日時を要し、不自由な生活を強いられましたが、皆様のご支援などもいただき、今では何事もなかったかのように過ごしています。それでも今週から漸くマンションの修理が始まり、半年あまり覆いがかかると暗い日々を過ごすことになりそうです。

さて、宮城県には三陸、東部自動車道があり、今回の大津波はこの自動車道を境に海側に甚大な被害をもたらしています。実際、昨夏に出向いてみると、一面、土台だけが残されて家がないという、これまでに見たことのない光景が延々と続くのを目の当たりにしなければならなかった。これまでに報道で充分

知ってはいたことだったが、現実の光景を目の当たりにして思わず啞然とするばかりである。今も色々な面で厳しい生活を強いられている被災者のことを思うと心が痛みます。それにしても、当初は日本人の美德が多く語られたが、ここにきて瓦礫一つを取っても、現時点では東北以外では東京だけが引き受け、後は住民の反対で頓挫しており、やはりお金だけ出せば良いという、総論賛成、各論反対の空気が支配的であり、何かやるせない気持ちであります。この大震災を決して風化させること無く、息の長い支援こそが求められています。小生も、何事もなかったかのような生活に埋没しないように、常に十数キロ先の現実を意識しながら生きたいものであります。

最後に、首都圏支部の皆様が、今後予想されている直下型大地震に十分に備えて立ち向かわれることを祈念申し上げます。

(東北薬科大学)

私のホールインワン人生白書

(④7、S35年卒) 伊勢谷 篤 弘

2月の首都圏三金会は、医大や製薬企業でご活躍中の参加者が多く、名物の牛タンで焼酎を叫りながら、話題の尽きない有意義で賑やかな団欒でした。

席上、酔った勢いで中西支部長からホールインワンの寄稿を要請され、葉窓会誌には場違いな投稿をする羽目になってしまいました。

さて、保険会社の統計では一般ゴルファーのホールインワンの確率は約7,500発に1回とのデータがある。これは1,900ラウンドに1回の確率となるので、月2ゴルファーの場合は約80年に1回となります。

私のゴルフ歴は50年で、月3回位として概算1,800ラウンドですが、3年前に2回目のホールインワンを達成しました。平均値の

2倍以上の速さで想定外のラッキーに恵まれて、ゴルフの女神に抱かれている様な夢見心地を味わいました。

1回目のホールインワンは15年前に藤ヶ谷カントリークラブ、2回目は八千代ゴルフクラブで、いずれも開業50年を超える千葉県の名門コースです。

特に2回目は、私が会長をしている八千代クラシックの第7回コンペで同窓の⑤0宮澤英雄氏と一緒にラウンドした時でした。

現在、このコンペは第20回を迎え120名程が参加する盛大なコンペとなり、同窓の④5橋浦十八、④8川上惇、⑤0下田力、⑤5柿崎直和、⑤5布施米子、⑤6金知出の各氏も参加しております。

第10回コンペでは柿崎直和氏が優勝されて、当時のよみうり新聞の地域版に写真入りの記事が報道されました。

幸い、私は22年前から50万円のホールインワン保険に加入していますので、2回分の保険金100万円をゲット致しました。勿論、ホールインワン記念に全額使いましたが、そのお祝い返しがほぼ同額あり、22年間の保険料約20万円を差引いても80万円の益金との皮算用になります。

10年後の85歳まで保険金を掛けても70万円余りの益金が残りますので、3回目のホールインワンが先か、寿命が先か、ケセラセラで人生の秋を楽しみたいと思っております。



男女優勝者 右が優勝の柿崎氏



表彰式開会の風景

(上記写真は読売新聞掲載記事担当の記者から提供されたものです。)

はとバス観光懇親記

(㊸、S36年卒) 船場定信

昭和36年卒業生による「奥田四八会」は、平成23年6月6日(月)に品川にあるグランドプリンスホテル新高輪で開催され、全国から38名の仲間が集まって、にぎやかな楽しい同期会となった。翌日は、はとバスを借り切って都内見学をした。

はとバスは首都観光の最も人気のある手段として長い歴史がありながら、実際利用した人は多くない。コースは国会議事堂から浅草へ、仲見世から浅草寺界隈の散策、昼食は「葵丸進」で天麩羅定食を味わう。午後は隅田川水上バスで日の出棧橋まで川下りを楽しみ、最後は六本木ヒルズの52階にある東京ビューから首都をまるごと見廻した。

●国会議事堂

日頃見慣れた国会議事堂の衆議院を見学したが、外からの眺めや平面地図やテレビの概念・印象とは大違いで、長い廊下や四階相当の急階段の昇り降りに会う。エレベータはVIP用で、一般人の使用は不可で車椅子もないという。最も国民の弱者に配慮を欠いている所であった。私の驚きは、議場を囲み覆うパネルである。全て一枚板に浮彫が施されていて、一分の狂いもない。驚嘆すべきはその平坦面の出来である。電動工具のない時代にすべて手仕事である。手で触ると吸い付くよ

うな平らさと温かさ、職人の静かなプライドさえ感じられる。恐らく材質・完成度・美しさは世界に類いを見ないのではないか。廊下のじゅうたんや石材の紹介はいろいろあるが、やはり実際に来て、見て、触れてみるのが大切と思い知らされた。

●浅草

誰かを案内してきたことは数回あるが、案内されたのは今回初めて。何か落ち着かない感じでお土産品まで新鮮に見える。お土産の新登場だという「揚げ万頭」など買ってみる。新名物となるにはいま一步の工夫が要るか。

浅草演芸ホールや六区界限観光は時間の関係でまたの機会とするとして、神谷パー発の浅草文化・デンキプランはなんとかしなければ、と裏通りの酒屋で6個買うのがやっとであった。

●水上バス・隅田川下り

私ごとで恐縮ですが、この度の川下りは積年の疑惑を晴らす記念すべき日となった。数十年来悩まされているアサヒビール吾妻橋ビル上の何を表現しようとしているかわからない黄金のオブジェ。ガイド嬢が「アサヒビールのオブジェは日照権侵害の抗議から、三本立てるはずの<炎>を止めて、そのうちの一本を横にしたもの」だという。これを聞いて一瞬、胸の霧の晴れる思いがした。「そうか、これはプロテストのオブジェなのだ。」と。少し遠景に、まったく明快な主張を誇る建設中の東京スカイツリーが見えた。

●六本木ヒルズ展望台・東京シティビュー

六本木再開発の中心となった六本木ヒルズ52階・海拔270mの「東京シティビュー」から360度の首都観光をする。次いで、53階の森美術館を見る。少し慌しく見ながら、マルセルの<泉>に出会う。アサヒビールのオブジェの方が社会性もあることから、スケールが大きいかなど場違いのことを考え、昨年急逝した故郷の先輩・福田繁雄(グラフィックデザイナー)のことを思い出し、また富山大学に

行く破目となった昔を懐かしむ。私にとっては、得がたいセンチメンタル・ジャーニーとなった。

東京駅でのお別れは、二年後の再会を約しながらも慌しく、もう一呼吸おけばよかったかな、と思う。また元気で会いましょう。

「継続」と「絆」は力なり!! ～三金会は牛たんと駄弁る会～

(㊟、S47年卒) 井本直樹

毎月第三金曜日には、三金会が開かれている。私が副幹事長時の設立(2009年1月)で、今年の一月中で36回(丸三年)を迎えた。富山薬窓会のお首都圏支部の方々は勿論、他支部や元支部の方々の参加も大歓迎されている。

三金会は、59回の元幹事長のMさん(ご本人は記憶が薄れているようですが)が、設立の発案者。山金会(近畿支部)のような懇親場所の拠点確保が、首都圏支部の存続・隆盛を図るためには必要と幹事会で提案され、現支部長で元E社のNさんが、子会社の旧職場が近隣にあり、常連だった「多津よし」を紹介。薬多津三金会(やくたつさんきんかい)の命名者は、58回の副支部長のKさんで、名付け親(ご本人は下手人とのこと)の咎として首都圏遠久栄54号に、会員の親睦や打合せなどに活用との趣旨やお店を紹介。「多津よし」のご主人は、ちい散歩(放映時間は平日の午前中に20分程なので働き盛りの方々には無縁)のキャスターで俳優の地井武男似の愛嬌もある頑固者(仕事は丁寧で大変旨い!)。お店



の看板文句である「仙台の味・牛たんの店」の味の保証は、参加者全員だが、旧D社の仙台支店長だったKさん(前支部長)も、店のご主人が休業した本場仙台の太助よりも旨いと絶賛。毎月の会の案内役・参加人数の確認役で、現幹事長のDさんは、職場が近隣で現在は常連さんに。値段不詳の牛たんのステーキも、最高とのこと。さすがに常連さんならではの言。若手は、出席回数が多い現副支部長のKさんと国家公務員のMさんで、いずれも富山の名門のC(T)高校出身の才色兼備とその防衛隊の若手会の面々が中心。

一般的なメニュー?は、牛たん二種類、チーズと海苔のオードブル、ビール、黒霧島(ロック、水割り、お湯割り)、ウーロン茶などの飲み物、仕上げはとろろ汁とご飯、牛テールスープで、男性は5,000円。おっとと肝心の駄弁るかいは、何でもありで相談あり、報告あり、連絡あり、押し売りありと言ったところで、あつと言う間に時間が経ち、お開きとなる。

ところで、さんきんかい本家の近畿支部山金会(毎月第三金曜日)は、最近届いた遠久栄のW支部長の原稿には一月で85回を迎えたとのこと。両さんきんかいの継続にエールを送りたいのだが、一層の若手の参加を祈念してやまない。

牛をたんと食べたい方、すてきな牛も食べたい方、たんと駄弁りたい方、いやそれ以外でも皆さんと顔を合わせたい方は、是非参加あれ。日本一美味しい牛たん、牛たんステーキ、洒落たおつまみ、とろろ汁、牛テールスープとお酒と駄弁りと笑顔と「伝統」と「絆」が待っていますよ。

仙台の味・牛たんの店 多津よし

営業時間：18:00～22:00

定休日：日曜日・祝日

〒170-0013 豊島区東池袋5-9-6

TEL: 03-3985-8776

有楽町線「東池袋」4番出口より徒歩3分

スキーは楽しい!!

(59、S47年卒) 清水善行

富山で学生時代を過ごした皆様にとって、冬のスポーツと言えば先ずスキーと思われます。それにしても今冬の積雪量の多さには驚かさされ、雪国で毎日の除雪に苦勞される方々には、同情申し上げます。

さて、今年の3月9～11日に新潟県赤倉温泉スキー場で開催された、薬学部スキー同好会と医薬大スキー部のOB・OG会に行ってきました。東京でお会いしている横山さんや川崎さん、高橋さん、大阪の豊田さん、新潟の丸山さん、卒業後初めてお会いする畑中(佐藤)さんが名古屋の加藤さんのお世話で集まりました。ゲレンデは湿雪気味でしたが積雪は350cmもあり、変わり果てた体型を一昔前のウェアでカバーして短いスキーと暖かい靴でクラシックスタイルのスキーを楽しみ、夕食時のビールと丸山さん持参の日本酒を嗜みながら加藤さん持参のパソコンでのDVD(昔の8mmを変換)上映会で、昔話に花を咲かせました。

昨年の1月には、60歳を過ぎて会社も延長雇用となり休暇も取り易くなったので、長野県奥志賀高原でのシニアスキー(杉山スキースクール)4泊5日に参加し、合宿形式で初対面の同年輩の方々とスキー技術の維持に努めてきました。3日目の講習前フリー滑走時に、張り切ってスピードを出し過ぎて大転倒して右肘を脱臼し、初めてパトロールとアキヤ(雪上搬送ソリ)のお世話になりましたが、スキー講師とホテル支配人の適切な連携で麓の整形外科で脱臼を修復してギプス固定となり埼玉に帰り着きました。昨年に引き続いて、今年の1月にも同じシニアスキーに参加し、前回は転倒・脱臼した奥志賀高原の最も急斜面でフリー滑走を満喫し、リベンジしてきました。

思い起こせば、スキーには卒業して会社に

入ってからは同僚と、子供が出来てからは家族で、毎年1回以上は行ってきましたし、妻と二人になってからは温泉付きスキーが恒例となっています。

近年は、若者スキー人口の低迷でスキー場はガラガラで昔のリフト待ち1時間が信じられない位に空いていますし、スキー板も曲がり易く靴も履き易く進歩していますので、時間とお金に余裕のある我々シニアが学生時代の楽しいスキーを思い出してスキー場に行く事で、雪国の活性化に繋げませんか。

シーハイル(Schi Heil)!!

スタート・オーバー

(59、S47年卒) 松本茂外志

唐突ですが、皆さんは、「スタート・オーバー(start over)」という英語をご存知でしょうか。今から10年前ぐらいに、海外勤務の長い友人から教わった言葉です。「ゲーム・オーバー(game over)」なら知っているのですが、この言葉は知りませんでした。「スタート・オーバー」は「やり直す」という意味だそうです。欧米では優秀なビジネスマンほど、一生のうちで何回か、「スタート・オーバー」を行うと友人から教わりました。今回は、私の「スタート・オーバー」の話を紹介させていただきます。

私は昭和47年に大学を卒業し、その年に中外製薬に入社して、昨年の3月に常勤監査役を退任するまで、実に40年間、中外製薬で勤務してきました。現在は、一線から退き、中外製薬顧問という肩書きで細々と会社とつながっています。

今、この40年間のサラリーマン人生を振り返ってみると、2度大きな転機がありました。1回目は、1993年です。当時、日本経済はバブルの絶頂期を終えた頃だと思われませんが、社内で新規事業プロジェクトが設立され、そ

のメンバーに組み入れられました。今思えば、組み入れられたというよりも、自ら進んでそのプロジェクトに飛び込んでいったような気がします。そして、翌年にメディカル事業部という医療用具の事業部を設立しました。この時点で医家向医薬品から完全に離れることになりました。いわゆる、1回目のスタート・オーバーです。結局、この事業は8年間続けましたが、2002年にロシュとのアライアンスを締結するときに小林製薬に売却しました。

この時点で、私の仕事は無くなった訳ですが、その時に会社から監査部に異動を命じられました。これはとてもショックでした。この会社での私のプレゼンスはもう無いのじゃないかと思いました。この時に、友人が教えてくれた「スタート・オーバー」という言葉を思い出したのです。そして、今までの過去を捨て去り、過去と決別しようと心に決めました。もう、後ろは振り返らない。これが2回目の「スタート・オーバー」です。監査の専門家になろうと心に決め、勉強を開始しました。当時は集中して勉強するために図書館通いをしていたことを思い出します。そして、50歳代前半に監査に関する国際資格を取得するとともに、会計監査を行うために簿記の資格も取得しました。内部監査を通じてリスクを未然に防止することにより、会社に貢献できたことが何度かありました。それが認められたのか、2007年からは常勤監査役に就任することが出来ました。監査役を退任した現在は、その専門性を生かし、講演活動と執筆活動を行っています。しかし、現役を離れているため、監査の専門性が通用するのも、もうわずかの期間だと思えます。

今は、第3回目の「スタート・オーバー」を考える時期にきています。今回は1回目、2回目と根本的に違うところがあります。1回目、2回目は会社からの命令で「スタート・オーバー」をせざるを得なかったのに対して、

3回目の「スタート・オーバー」は自らの意志で実行します。いずれ、報告する機会があればと思っています。

20年の回顧

(⑦、H2年卒) 紺谷 徹

寒さが少し和らぐ日が増え、桜の蕾が芽吹くことを期待しながら過ごす季節になると、富山医薬大大学院を修了し、当時の山之内製薬(現アステラス製薬)へ入社するため富山を後にした頃のことを思い出す。富山に生まれ育って20数年、初めて郷里を離れて社会へ飛び込む不安と、会社での創造的な研究生活に膨らむ夢とが入り混じった気持ちを抱えて上京した際、羽田からのモノレール車中から隅田川沿いに見た咲き始めの淡い色をした桜並木が今でも鮮明に目に焼き付いている。何でもない季節の風景だが、自然と桜の記憶を手繰り寄せると、必ずここにたどり着く。かれこれその回顧も21回目を迎えようとしている。

現在も一貫してアステラス製薬の創薬研究の最前線に身を置いているが、入社当時、一地方大学出身であるが世界水準の有機合成化学の研究を故小泉徹教授(当時の合成化学教室教授)の下で積んだ経験を生かせば、新薬の一つや二つは簡単にこの手で創薬できると思ひこむ少々高慢な若造であった。その鼻っ柱は周りの先輩方の創薬に対する豊富な知識・経験と圧倒的なプロ意識を目の当たりして早々にへし折られ、創薬研究のスピードとレベルに圧倒されながら無我夢中で新人の頃を駆け抜けた。

自分でデザインし合成した化合物が薬理および非薬効薬理評価を受け目標のプロフィールに少しでも近づくことに喜びを実感しつつも、臨床試験を経て上市までに至る遙か遠い道のりを到底一人の力では達成させることはできない事は明白で、創薬はチーム力に他なら

ないと実感できたのも中堅研究員時代に数々の優秀な化学のリーダーを間近で見えてきたからに他ならない。

果たして自らが化学のリーダーを任された当初は御世辞にもまともなテーマ推進が出来たとは言えないが、幾つかのテーマ失敗の苦い経験をし、これが最後と腹を括って臨んだテーマで、主薬効増強、薬物相互作用回避、経口吸収性改善等、次々と降りかかる課題・難題を他部署も含めたテーマメンバーと喧々諤々、知恵をぶつけ合いながら活路を見出し、曲りなりにもようやく開発候補化合物にたどり着いた時は、大きな充実感と共に創薬研究の醍醐味を味わった。残念ながら自ら手掛けたその化合物は臨床試験に進んだ以降、開発中止を余儀なくされてしまったが、当時の国内外の多くのプロジェクトメンバーとの絆が財産として残り、当時の上司の「君だからこそここまでやってこれた」との言葉は創薬人生での宝となっている。

今は自らの手で化合物を創ることは無くなったが、これまでの経験と想いを後輩・若手に伝え、新たな立場・角度から創薬を実現したいという思いは昔となんら変わりはない。20年前に見た隅田川の桜並木を思い出し、初心の如く身を引き締めて臨む2012年の春である。

アメリカ留学

(84、H9年卒) 木村 徹

私は2002年に博士課程を修了し、2006年まで4年間のアメリカ留学を経験しました。そして現在、杏林大学医学部薬理学の教員として勤務しています。教員といっても、ほとんど研究の毎日ですが。卒業後すぐに渡米してしまったこともあり、薬窓会首都圏支部の存在すらほとんど知りませんでした。昨年に大学の研究室の先輩から連絡があり、若手

の会に参加させてもらいました。今後、総会などにも参加していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

さて、少しですがアメリカ留学した時のことを紹介したいと思います。留学先はConnecticut州、New Haven市にあるYale大学です。Connecticut州ってどこ？という人が多いかと思いますが、ちょうどニューヨークとボストンの中間くらいにある所です。Yale大学は全米で三番目に歴史の古い大学であり、New Havenのダウンタウンを歩くと、大学の建物が多く目につきます。それらは長い歴史を感じさせる美しい建築物です。ニューヨークから電車で2時間弱で行けますので、興味がある方は是非訪ねていただきたいと思います。

私が留学したきっかけは、4年生・大学院生とお世話になった先生の紹介で、自分でも研究していくのなら一度は海外に出たいと思っていたので、とても幸運でした。でも本当に留学が決まった時は、大丈夫かなあ・・・？と、とても不安になりました。なにしろ、元々英語が苦手だったので(富山医科薬科大学に行ったのも半分は2次試験に英語がなかったからです。)。でも、これは留学経験がある人は誰でも言うのですが、なんとかなる！です。4年も留学したから英語ペラペラでしょ？と聞かれると困るのですが…それなりに生活はできました。

なにより留学しなければ経験できないことがたくさんありました。1つは海外の研究者と知り合いになれたことです。研究室にはアメリカ人だけでなく、ヨーロッパなどからの研究者も多く、研究を含めて各国の人と色々な話ができました。研究では国の隔たりは関係ないので、海外の研究者と同じ土俵で研究できたのはとても有意義だったと思います。写真はその友人たちと家でホームパーティーを開いた時のものです。また、同じように留学しに来ている日本人研究者とも知り合うこ

とができました。帰国後も学会の時に連絡を取って飲みに行ったり、共同研究をしている人もいます。(ちなみに、妻と知り合ったのも留学先です。)留学しなくても良い研究はできますが、留学することで研究に幅ができたと思います。

最近では国際学会でたまに海外へ渡航する程度ですが、これからも世界を飛び回っていったらいいなあと思います。



勝手に世界ランキング

(84、H9年卒) 膝 附 由 香

私がこれまでに訪れた海外旅行先を、勝手にランキング付けしてみました。

【人が親切な国No.1】

メキシコがNo.1ですね。みんながちょっとおせっかいな田舎のおじちゃん、おばちゃんという感じで、駅や、道で困っていたりすると、聞いてもないのに教えてくれたり、路線バスを降りるときに重たい荷物を下ろしてくれたりしました。オーストラリアも、親切でした。

【まじめな国No.1】

カンボジアの人たちはとてもまじめでした。まだ、学校が足りなくて教育を受けるのは大変なのだそうです。ガイドは日本語べらべらだったのですが、日本へ留学したことはもちろんなく、海外へ出たこともありません。高校は都市にしかないのも、お寺に住まわしてもらって通学し、その後、日本語学校で2年間勉強、

毎日宿題も多くて厳しかったらしいです。卒業してもすぐにガイドになることは出来ないらしく、観光客が来るレストランや土産物屋でさらに日本語を学び、ようやくガイドになれるらしいです。本当に頭が下がります。

【きれいなビーチNo.1】

これはなんといっても、ニューカレドニアですね。天国が一番近い島です。ハワイのオアフ島東部のビーチとオーストラリアのゴールドコーストもお勧めです。

【不思議な町並みNo.1】

マカオの歴史地区は、通りの名前は中国なのに、町の作りはヨーロッパ風で、中国とヨーロッパの中世が隣り合っているのに違和感なく見事に融合しています。

【観光客からぼたくってるなあと思った国No.1】

これはダントツでエジプトです。タクシーや観光用の馬車・らくだはもちろん言い値で、足元を見てくるのでガイドブックに載っている参考料金で乗れたことはありませんでした。レストランに入っても、地元民と観光客用で見せるメニュー表が異なる場所も。また、ツアーボリスですら、写真を撮ってくれた後に「バクシーシ」と言ってイスラム教での「喜捨」をチップ代わりにせがんできます。

【お前らしつこいぞと思った国No.1】

これもエジプトです。まあ、しつこいこと。街中やピラミッドの周りを歩いていると、物売りや、馬車・ラクダの客引きが、5mごとに声をかけてきて断っても付いてきます。

【ご飯が美味しい国No.1】

これは甲乙つけがたくNo.1は決められません。アジア圏はお米文化のせいなのか、どこも美味しいです。ラテンアメリカのメキシコ・ペルーはどちらもスペインの文化と地元文化が融合しており、地域ごとに料理に特色があって美味しいです。ニューカレドニアはカキやロブスターなどのシーフードがとても美味



しいです。ちなみに、Worst1はエジプトです。

と、ここまでではいろんなNo.1を全くの主観で語ってきましたが、ここからは、お勧めの観光スポットの紹介です。

【大自然に感動】

グランドキャニオンの壮大さには圧倒されました。写真ではなかなか伝わらないですが、グランドキャニオンの断崖の平均の深さは約1200m、長さ446kmで、幅6km～29kmに及びます。今から7000万年前、地殻変動により隆起したことに始まり、約4000万年前からコロラド川による侵食が始まり、峡谷は500万年前にほぼその全容を現し、現在見られるような峡谷になったのは、約200万年前だそうです。また、エアーズロックにも感動です。知ってますか？エアーズロックはひとつの大きな岩で、地表に現れているのはそのわずか5%だけだそうです。いやあ、地球ってスゴイ。

【古代のロマンに乾杯】

まずはマチュピチュ!! 日本人が訪れたい世界遺産1位に選ばれたこともあるほどで、その姿は見る人をひきつけます。ご存知のとおり、インカ帝国の都市ですが、なぜあんな高い山の尾根に都市を作ったのか未だに謎であり、新・世界七不思議のひとつです。行くのは大変ですが、一見の価値はあると思います。次にあげるのは、メキシコのアステカ・マヤ文明の遺跡です。ピラミッドひとつをとっても、2段になっていたり、丸みを帯びていたり、場所によってすべて姿・形が異なる

点が興味深いです。エジプトとは異なり、太陽を拝むためのものであるのもので頂上まで登ることが出来ます。エジプトの遺跡はすべてが巨大建築物でした。ギザの三大ピラミッドのうち最も大きいクフ王のピラミッドは、高さが146mもあります。4000年以上も昔によくこんなものを建築できたなあ、ただただ感心するばかりです。

いかがですか。皆さんもいろんな国へ出かけてみては？

CROをご存知ですか？

(㊦、H10年卒) 川 邊 香 代

大学卒業後、地元である北海道に戻り、病院薬剤師として勤務していた私がCROと出会ったのは2004年のことでした。在学中から医薬品開発に興味があり、また、薬剤師として得た知識や経験を活かすチャンスと考え、思い切ってCRO業界へ転職しました。

CROとは、Contract Research Organizationの略で、『医薬品開発業務受託機関』と訳されます。一般には、主に製薬企業から臨床試験を受託する会社を意味します。医薬品が承認されるまでには数多くの段階があり、10年以上にも及ぶ膨大な時間と労力、コストを必要とします。そこで、開発効率を高め、より早く新薬を生み出すために臨床試験、製造販売後調査におけるさまざまな業務を代行・

サポートしているのがCROです。製薬企業より受託する業務は、CROのコア業務であるモニタリング業務のほか、データマネジメント業務、統計解析業務、メディカルライティング業務などさまざまです。また、最近では医薬品の開発のみならず、医療機器や特定保健用食品の開発などもサポートしています。

現在では、欧米の医薬品開発業務の半数近くをCROが受託しているといわれていますが、日本では、まだまだ欧米には及びません。日本でCRO業界自体が認知されるようになってから未だ十数年程度であり、現在もCROビジネスは着実に成長を遂げています。今後、日本においてもCROは、臨床試験のプロフェッショナルとして医薬品開発に欠かせない存在になりつつあります。2004年の入社時には、富山医科薬科大学の卒業生は私ただ一人でしたが、ここ数年では新入社員として入社される後輩もいます。大学の後輩達と一緒に仕事ができるというのは、非常に喜ばしいことです。

日本でもCROが製薬企業の良いビジネスパートナーになれるよう、CROは常に製薬企業のニーズに対応できる体制を整えていく必要があります。科学的・倫理的な臨床試験を実施できる若い人材の育成に携わりながら、CRO業界の発展に微力ながらも貢献できればと思います。

ゴルフクラブ便り

第80回薬窓会ゴルフコンペ戦記

女子同窓生の勉強会である「桔梗会」が長い活動の歴史を休止した今、薬窓会支部公認の同好会として唯一活動を続けているのが「ゴルフ同好会」です。そしてついに、第80回(年2回開催ですので、40年間活動中!)の『薬窓会ゴルフコンペ』を迎えることになりました。

何ととっても、記念すべき大きな節目の大

会ですので、事務局として、当初は4月中旬に、温泉1泊にてのゆったりプレーと、夜はOB会員をもご招待しての懇談会を企画していました…70回(栃木県さくら市お喜連川CC)、75回(群馬県藤岡市の藤岡温泉GC)に続いて、当初の候補地は、栃木県矢板市でしたが、…。

そのような中、突然、東北地方を中心に『3.11東日本大震災』が起きました。

わが国全体がショック状態になり、当然ですが、会員のみならず大いに心を痛められた様子でした。ご案内状(第1報)をお届けすると、事務局に、「大きなコンペを実施してよいのか?(自粛した方がよい?)」や、「こんなご時勢でもあり、気持ちからいえば、泊まりは止めて日帰りで開催してはどうか?」などのご意見が寄せられました。

実際に、かなり長い間、東北新幹線を含めてJRが止まり、高速道路も通行不可になりましたので、ホテルやゴルフ場へのアクセスに問題がありました。

また、電話でゴルフ場に確認してみると、クラブハウスなどかなりの地震被害が起きていました。

というわけで、結局、会員のみなさんの気持ちを斟酌させていただき、とりあえず半年間、コンペ開催を遅らせるとのご連絡を差しあげ、さらに今回は、通常のコンペ形式(日帰り)にして開催することにさせていただきました。

2011年10月14日(金)、天気はいつもの通り快晴。コースは、最近数回開催している東急系列の「筑波東急GC」です。都内からも筑波エクスプレスで行けますし、終点の筑波駅からはクラブバスが利用できます。当日朝、集まったメンバーは17人(1人が急遽欠席)。

今回のご案内直後は、久しぶりのフルメンバー(常連の20人)が参加と、事務局の期待は膨らみましたが、昨今は何人かの方が急に体調を崩されたりして欠席の連絡をしてこられて、事務局としては心配しきりですが、今

回は群馬県から山本恵さんが馳せ参じてくださり、紅三点(④⑧川村博子さん、⑤⑤布施米子さん、⑤⑥山本恵さん)の華やかさとなりました。

暖かいお天気の中、熱戦が繰り広げられましたが、終わってみれば、常連の⑤⑥都築正明さんが堂々の初優勝の栄誉に輝きました。準優勝は④⑦小国益男さん、3位は④⑦関誠さんが順当に揃いました。BB賞も常連?の④⑥川畑耕祐さんでした。

懇親会では、1泊企画を変更した事務局の決定に対して、みなさまからの支持が得られ、事務局としても安心した次第です。

(事務局:⑤⑤、S43年卒 柿崎直和)

100字通信

④⑥、S34卒 五十嵐俊二
油彩展 四季の花:6月29日(金)~7月5日(木)
(日曜休館)、所沢市東狭山ヶ丘1-6-1 ギャラリー喫茶「心の風景」(西武池袋線狭山ヶ丘駅東口徒歩1分)。今回は夏の花、F6「ひまわり」など10余点を展示販売。

⑦⑦、H2卒 増本 純也
この1月に愛媛大学医学部ゲノム病理学(旧第2病理学)教授に異動になりました。愛媛大学理事で大先輩の渡邊裕工学部教授にお会いでき感激しました。首都圏支部の先生方には今後ともどうぞよろしくお願い致します。

④⑧、S36卒 川上 惇
東日本大震災の翌日、東京都マスターズスラローム大会に出場し、左膝内側側副靭帯を損傷しました。怪我をしてみると、自由に動きまわる人達の膝のすばらしさに頭が下がる。早く健康な人達の仲間に戻るべく、リハビリに励んでいる。

④⑦、S35卒 橋本 喜信
私の創薬科学50年の歩みが、Yahooにのりました。名刺の裏面を見てください。

④⑩、S28卒 眞船 恒雄
世界一周を完歩!平成7年元旦より1日1万歩の記録を入力し始めて今年の7月3日で71,562,530歩、約40,083Kmを歩き、地球を一

周したことになります。この間の1日平均は11,870歩です。81歳ですがすこぶる元気で歩き続けています。

④④、S32卒 高木 良造
以前勤めていた大森赤十字病院が新築落成し、内覧会に招かれた。最新の設備が整い、病棟も新しくなり、薬剤師も様変わりした。注射薬を混合する無菌室が新設され、私達が試行錯誤して行った病棟業務が主たる業務となった今、それに対応する設備に替わっていた。

③⑩、S16卒 高山 薫
第30回生は、昭和14年4月入学、昭和16年12月26日卒業(繰り上げ)85名。昭和17年2月に軍隊に入営。現在在京の米屋清一、金子春雄共に健在。生存学友の益々の発展を心から祈る今日この頃。

③⑦、S25卒 松井 信政
ご案内頂きありがとうございます。平成18年夏に脳出血以来、杖と車椅子の生活になりました。遠出もお付き合いもままならぬようになり、今回で中止させて頂きますので宜しく願い申し上げます。会の発展を祈っております。

④⑧、S36卒 松繁 克道
1983年、文部省学術調査助成金で、ネパール・アンナプルナ周辺の民族医学、薬草調査に参加し、いつの間にか27回も訪問しました。この間ヒマラヤ奥地にチベット病院や学校を寄付しました。今年も行きます。

⑤⑧、S46卒 津久井和夫
遠久栄を毎回拝読させていただいています。従来、仕事で頭が一杯であったこと、酒が飲めないことで、不参加でいましたが、同期の方々のお名前が出てくるようになり、心を動かされています。

④①、S29卒 前川 昶
八十路に入り2年、人生のたそがれ何のその。ビジネス街でOTCパート中。お客様との対話を楽しんでます。東京直下型M9、震度7以上が4年以内に70%の確率で発生予測の発表あり。生き残る確率無限に0に近い。

③⑧、S26卒 上塚 勉
H9年開設以来クリニックのマネージメントを続け、日々若い人達とワイワイで元気をもらっています。目下のところ何時終わりにするか考えていません。健康の許すかぎりと思っています。

⑤⑦、S45卒 富田 幹夫
mitomida@gctv.ne.jp

埼玉がんセンターを退職し、愛知県瀬戸市に転居しました。故郷はオオサンショウウオが棲息する、自然に恵まれた里です。私の母校の近くに、夢窓国師が開山した永保寺があります。案内いたしますのでご連絡ください。

旧職員 渡辺 和夫

年齢なりに種々ありますが、お陰様で元気です。この5年ばかり俳句にはまっていますが、保育園から投句した5歳の孫の俳句が、NHK俳句全国大会で幼児の部の特選3句に選ばれて、じいじは完全に負けています。

③⑦、S25卒 林 昌宏

昨年4月18日、主人は永眠しました。淋しさの日々を過ごしております。故郷の皆様にお目にかかれなくて本当に残念です。どうか日本の復興が一日も早く、明るい日々に戻れますように。皆様のご健康とお幸せを祈っております。(林陽子)

④①、S29卒 平井 喬

平成23年8月30日亡くなりました。(ご家族より)

②⑧、S16卒 矢船 寿雄

平成23年5月14日に92歳で永眠しました。長い間お世話様で御座いました。皆様の御健勝を心より願っております。(娘より)

②①、S9卒 津森 繁隆

津森繁隆は、平成23年7月18日死亡いたしました。長い間のご連絡有難うございました。(ご家族より)

④②、S30卒 武内 哲夫

父は、去る平成23年3月2日、越谷市の自宅にて急逝致しました。在学中及び旧山之内製菓在勤中より、同窓のみなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。(長男 武内 康)

②④、S12卒 加藤隆之助

祖父 加藤隆之助はおとし亡くなりましたので今後会報は結構です(亡年92歳)。今後益々のご発展をお祈りいたします。(ご家族より)

会報に同封されている100字通信ハガキで近況をお知らせください。またメールでの連絡も受け付けていますので、宜しくお願い致します。

平成23年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会

平成23年度首都圏支部定期総会

平成23年6月18日(土) 茗溪会館

2. 幹事会

第1回幹事会

平成23年7月6日(水) 茗溪会館

第2回幹事会

平成23年11月21日(月) 茗溪会館

第3回幹事会

平成24年3月5日(月) 茗溪会館

3. 平成24年度薬窓会首都圏支部総会案内状送付

平成24年3月2日発送

5. その他

薬多津三金会(毎月第三金曜日開催)

於: 多津よし(東池袋)

首都圏支部資産状況

(平成24年3月末現在)

普通預金(北陸銀行) 6,226,049円

平成23年度 首都圏支部役員

(平成24年3月末現在)

支部長 : ⑥①、S48年卒 中西 憲幸

副支部長 : ⑤⑧、S46年卒 加藤 健二

③③、H08年卒 葛西 美恵

幹事長 : ⑥⑥、S54年卒 道見 茂樹

副幹事長 : ⑤⑤、S43年卒 柿崎 直和

平成23年度会計報告

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

| I. 収入の部 | | 単位 円 |
|--------------|-----------|-----------|
| 項 目 | 予 算 | 実 績 |
| 前年度繰越金(普通預金) | 7,214,597 | 7,214,597 |
| 年 会 費 | 350,000 | 288,000 |
| 総 会 参 加 費 | 400,000 | 447,000 |
| 普 通 預 金 利 息 | 1,500 | 1,039 |
| 合 計 | 7,966,097 | 7,950,636 |

| II. 支出の部 | | 単位 円 |
|-----------------------|-----------|-----------|
| 項 目 | 予 算 | 実 績 |
| 総 会 費 | 500,000 | 498,960 |
| 会 合 費 (幹 事 会 等) | 100,000 | 142,065 |
| 交 際 費 | 10,000 | 8,000 |
| 事 務 通 信 費 | 300,000 | 309,770 |
| 同 好 会 補 助 費 | 40,000 | 20,000 |
| 会 報 発 行 費 | 600,000 | 548,352 |
| 出 張 費 | 60,000 | 90,000 |
| 事 務 局 費 | 30,000 | 7,440 |
| 震災義援金 (Japan プラットホーム) | 100,000 | 100,000 |
| 次年度繰越金(普通預金) | 6,226,067 | 6,226,049 |
| 合 計 | 7,966,067 | 7,950,636 |

平成24年度予算(案)

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 項 目 | 金 額 | 項 目 | 金 額 |
| 前年度繰越金(普通預金) | 6,226,049 | 総 会 費 | 500,000 |
| 年 会 費 | 500,000 | 会 合 費 | 100,000 |
| 総 会 参 加 費 | 500,000 | 交 際 費 | 10,000 |
| 普 通 預 金 利 息 | 1,000 | 事 務 通 信 費 | 300,000 |
| | | 同 好 会 補 助 費 | 20,000 |
| | | 会 報 発 行 費 | 550,000 |
| | | 出 張 費 | 60,000 |
| | | 事 務 局 費 | 30,000 |
| | | 次年度繰越金(普通預金) | 5,657,049 |
| 合 計 | 7,227,049 | | 7,227,049 |

平成23年度 支部年会費納入者一覧

(総計 288 名)

※平成23年5月から平成24年3月
までに年会費を納入された方の一覧
です。

| 回 | 年号 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年号 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年号 | 年卒 | 氏名 |
|----|----|----|-------|----|----|----|-------|----|----|----|-------|
| 26 | 昭和 | 13 | 竹澤富三 | 43 | 昭和 | 31 | 落合信雄 | 47 | 昭和 | 35 | 関 誠 |
| 27 | 昭和 | 14 | 片桐昌義 | 43 | 昭和 | 31 | 車田知之 | 47 | 昭和 | 35 | 古川貞子 |
| 28 | 昭和 | 15 | 岩崎光一 | 43 | 昭和 | 31 | 細 信彦 | 47 | 昭和 | 35 | 市中滋郎 |
| 28 | 昭和 | 15 | 須田民三 | 43 | 昭和 | 31 | 久郷正孝 | 47 | 昭和 | 35 | 籠瀬信夫 |
| 30 | 昭和 | 17 | 金子春雄 | 43 | 昭和 | 31 | 古徳 治 | 47 | 昭和 | 35 | 京泉清男 |
| 30 | 昭和 | 17 | 高山 薫 | 43 | 昭和 | 31 | 元田 修 | 47 | 昭和 | 35 | 並木英明 |
| 30 | 昭和 | 17 | 渡會春雄 | 43 | 昭和 | 31 | 山岸伸郎 | 48 | 昭和 | 36 | 阿部喜久子 |
| 32 | 昭和 | 18 | 石倉隆一 | 43 | 昭和 | 31 | 脇田秀雄 | 48 | 昭和 | 36 | 川上 惇 |
| 33 | 昭和 | 19 | 岩崎 貢 | 44 | 昭和 | 32 | 石原俊明 | 48 | 昭和 | 36 | 川上芳子 |
| 34 | 昭和 | 21 | 織井文貞 | 44 | 昭和 | 32 | 岡田和造 | 48 | 昭和 | 36 | 熊木健治 |
| 34 | 昭和 | 21 | 永井正之 | 44 | 昭和 | 32 | 川村隆子 | 48 | 昭和 | 36 | 樋口明彦 |
| 35 | 昭和 | 22 | 野村哲夫 | 44 | 昭和 | 32 | 車田千秋 | 48 | 昭和 | 36 | 船場定信 |
| 36 | 昭和 | 23 | 島谷佐太郎 | 44 | 昭和 | 32 | 鈴木芳子 | 48 | 昭和 | 36 | 松繁克道 |
| 37 | 昭和 | 24 | 秋元 昂 | 44 | 昭和 | 32 | 永田邦夫 | 48 | 昭和 | 36 | 三浦 晋 |
| 37 | 昭和 | 24 | 伊藤謙治 | 44 | 昭和 | 32 | 林 吉孝 | 48 | 昭和 | 36 | 村杉和子 |
| 37 | 昭和 | 24 | 井上三郎 | 44 | 昭和 | 32 | 紙谷得子 | 48 | 昭和 | 36 | 安宅久弥 |
| 37 | 昭和 | 24 | 斉藤正己 | 44 | 昭和 | 32 | 高木良造 | 48 | 昭和 | 36 | 久保一夫 |
| 37 | 昭和 | 24 | 千葉繁治 | 44 | 昭和 | 32 | 高瀬清孝 | 48 | 昭和 | 36 | 久保春子 |
| 37 | 昭和 | 24 | 山口輝夫 | 45 | 昭和 | 33 | 荒木紀子 | 48 | 昭和 | 36 | 中嶋 啓 |
| 37 | 昭和 | 24 | 大和宗雄 | 45 | 昭和 | 33 | 佐藤 忠 | 48 | 昭和 | 36 | 油木劬之 |
| 37 | 昭和 | 24 | 水牧勝美 | 45 | 昭和 | 33 | 児玉英篤 | 48 | 昭和 | 36 | 井上禎子 |
| 38 | 昭和 | 25 | 上野 洵 | 45 | 昭和 | 33 | 橋浦十八 | 49 | 昭和 | 37 | 川村博子 |
| 38 | 昭和 | 25 | 津田照明 | 45 | 昭和 | 33 | 古谷 隆 | 49 | 昭和 | 37 | 加藤昭彦 |
| 38 | 昭和 | 25 | 河津光高 | 45 | 昭和 | 33 | 佐藤池鶴子 | 49 | 昭和 | 37 | 鈴木国男 |
| 39 | 昭和 | 26 | 松井一男 | 45 | 昭和 | 33 | 新森信正 | 49 | 昭和 | 37 | 廣江光代 |
| 39 | 昭和 | 26 | 米丸洋子 | 45 | 昭和 | 33 | 大郷利治 | 49 | 昭和 | 37 | 船木美智子 |
| 40 | 昭和 | 28 | 高瀬ミサ子 | 45 | 昭和 | 33 | 松岡慶子 | 49 | 昭和 | 37 | 三尾美和子 |
| 40 | 昭和 | 28 | 千原秀夫 | 45 | 昭和 | 33 | 水野一彦 | 49 | 昭和 | 37 | 小川信吾 |
| 40 | 昭和 | 28 | 眞舩恒雄 | 46 | 昭和 | 34 | 安藤統美 | 49 | 昭和 | 37 | 土方久家 |
| 40 | 昭和 | 28 | 高橋重二 | 46 | 昭和 | 34 | 五十嵐俊二 | 49 | 昭和 | 37 | 林 幸子 |
| 40 | 昭和 | 28 | 飛田寿雄 | 46 | 昭和 | 34 | 中村恵子 | 49 | 昭和 | 37 | 古谷 孝 |
| 41 | 昭和 | 29 | 松田利子 | 46 | 昭和 | 34 | 結城澄子 | 50 | 昭和 | 38 | 秋葉裕子 |
| 41 | 昭和 | 29 | 基常弘晃 | 46 | 昭和 | 34 | 森 哲朗 | 50 | 昭和 | 38 | 秋本紀子 |
| 41 | 昭和 | 29 | 志甫 正 | 46 | 昭和 | 34 | 川畑耕祐 | 50 | 昭和 | 38 | 川田桂子 |
| 41 | 昭和 | 29 | 前川 昶 | 46 | 昭和 | 34 | 尾嶋司郎 | 50 | 昭和 | 38 | 饗場みゆき |
| 42 | 昭和 | 30 | 荒川泰藏 | 46 | 昭和 | 34 | 齊藤諒三 | 50 | 昭和 | 38 | 木原幸弘 |
| 42 | 昭和 | 30 | 佐藤哲男 | 47 | 昭和 | 35 | 梅原 弘 | 50 | 昭和 | 38 | 武石万里子 |
| 42 | 昭和 | 30 | 佐藤正美 | 47 | 昭和 | 35 | 須藤昌二 | 50 | 昭和 | 38 | 福田昌平 |
| 42 | 昭和 | 30 | 竹村日出男 | 47 | 昭和 | 35 | 野田久正 | 50 | 昭和 | 38 | 前田一郎 |
| 42 | 昭和 | 30 | 山上高德 | 47 | 昭和 | 35 | 橋本喜信 | 50 | 昭和 | 38 | 宮澤英雄 |
| 42 | 昭和 | 30 | 久世啓吾 | 47 | 昭和 | 35 | 安川正巳 | 50 | 昭和 | 38 | 高野祐子 |
| 42 | 昭和 | 30 | 桑野二郎 | 47 | 昭和 | 35 | 安川淑子 | 50 | 昭和 | 38 | 定塚紀志子 |
| 42 | 昭和 | 30 | 種谷 豊 | 47 | 昭和 | 35 | 伊勢谷篤弘 | 50 | 昭和 | 38 | 飯田武治 |
| 42 | 昭和 | 30 | 渡邊 靜 | 47 | 昭和 | 35 | 若林庸夫 | 51 | 昭和 | 39 | 石塚典子 |
| 42 | 昭和 | 30 | 才川 勇 | 47 | 昭和 | 35 | 小国益男 | 51 | 昭和 | 39 | 島田庄蔵 |
| 43 | 昭和 | 31 | 上野謙爾 | 47 | 昭和 | 35 | 倉石弘一 | 51 | 昭和 | 39 | 塚越由美 |

| 回 | 年号 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年号 | 年卒 | 氏名 | 回 | 年号 | 年卒 | 氏名 |
|----|----|----|--------|----|----|----|--------|----|----|----|-------------|
| 51 | 昭和 | 39 | 古市郁子 | 56 | 昭和 | 44 | 深澤 宣 | 64 | 昭和 | 52 | 真船英一 |
| 51 | 昭和 | 39 | 那須邦久 | 56 | 昭和 | 44 | 山本 恵 | 65 | 昭和 | 53 | 岩崎弘子 |
| 51 | 昭和 | 39 | 加賀美壯一 | 56 | 昭和 | 44 | 横山司甫 | 66 | 昭和 | 54 | 大西弘章 |
| 51 | 昭和 | 39 | 古市泰宏 | 56 | 昭和 | 44 | 酒井綾子 | 66 | 昭和 | 54 | 金子美代子 |
| 51 | 昭和 | 39 | 長谷川悦子 | 56 | 昭和 | 44 | 綿鍋維男 | 66 | 昭和 | 54 | 川崎英之 |
| 51 | 昭和 | 39 | 諏訪庸夫 | 56 | 昭和 | 44 | 鈴木英世 | 66 | 昭和 | 54 | 鹿田史紀 |
| 52 | 昭和 | 40 | 小野澤カツ子 | 56 | 昭和 | 44 | 三石史郎 | 66 | 昭和 | 54 | 真船恭子 |
| 52 | 昭和 | 40 | 坂本由美子 | 57 | 昭和 | 45 | 伊藤要一 | 66 | 昭和 | 54 | 道見茂樹 |
| 52 | 昭和 | 40 | 中島良信 | 57 | 昭和 | 45 | 奥村淳子 | 66 | 昭和 | 54 | 道見優子 |
| 52 | 昭和 | 40 | 廣瀬南海子 | 57 | 昭和 | 45 | 北野栄一 | 66 | 昭和 | 54 | 加藤浩嗣 |
| 52 | 昭和 | 40 | 星野洋子 | 57 | 昭和 | 45 | 佐々木由紀子 | 66 | 昭和 | 54 | 荻原いく江 |
| 52 | 昭和 | 40 | 増田信男 | 57 | 昭和 | 45 | 真野由比子 | 68 | 昭和 | 56 | 大野伸子 |
| 52 | 昭和 | 40 | 是枝 潤 | 57 | 昭和 | 45 | 天笠之珠子 | 68 | 昭和 | 56 | 木村友泉 |
| 53 | 昭和 | 41 | 安西慶子 | 57 | 昭和 | 45 | 保坂公平 | 68 | 昭和 | 56 | 健名洋貴 |
| 53 | 昭和 | 41 | 坂本理英子 | 57 | 昭和 | 45 | 服部 仁 | 68 | 昭和 | 56 | 深谷洋一 |
| 53 | 昭和 | 41 | 中村和子 | 57 | 昭和 | 45 | 本田伊都子 | 68 | 昭和 | 56 | 益見厚子 |
| 53 | 昭和 | 41 | 村上則彦 | 58 | 昭和 | 46 | 石井誠司 | 69 | 昭和 | 57 | 小林真弓 |
| 53 | 昭和 | 41 | 岩碯孝一 | 58 | 昭和 | 46 | 石田行知 | 69 | 昭和 | 57 | 竹内 誠 |
| 53 | 昭和 | 41 | 曲淵徹雄 | 58 | 昭和 | 46 | 加藤健二 | 69 | 昭和 | 57 | 塚本尋子 |
| 53 | 昭和 | 41 | 南 法夫 | 58 | 昭和 | 46 | 河内秀明 | 70 | 昭和 | 58 | 浦本博志 |
| 53 | 昭和 | 41 | 林 聡 | 58 | 昭和 | 46 | 末木一夫 | 70 | 昭和 | 58 | 遠藤義之 |
| 53 | 昭和 | 41 | 深田和代 | 58 | 昭和 | 46 | 千田耕平 | 70 | 昭和 | 58 | 大塚幹子 |
| 54 | 昭和 | 42 | 市川 諭 | 58 | 昭和 | 46 | 穂苺 茂 | 70 | 昭和 | 58 | 工藤知子 |
| 54 | 昭和 | 42 | 市川春子 | 58 | 昭和 | 46 | 三石知恵子 | 70 | 昭和 | 58 | 茂呂今日子 |
| 54 | 昭和 | 42 | 奥田昌子 | 58 | 昭和 | 46 | 村上 学 | 70 | 昭和 | 58 | 山口貴史 |
| 54 | 昭和 | 42 | 金森未美 | 58 | 昭和 | 46 | 村田悦郎 | 71 | 昭和 | 59 | 大川恵子 |
| 54 | 昭和 | 42 | 庄司幸子 | 58 | 昭和 | 46 | 千田耕平 | 71 | 昭和 | 59 | 黒田豊志 |
| 54 | 昭和 | 42 | 庄司孝市 | 59 | 昭和 | 47 | 石田志津子 | 72 | 昭和 | 60 | 嵯峨 學 |
| 54 | 昭和 | 42 | 牧戸宏行 | 59 | 昭和 | 47 | 井本直樹 | 73 | 昭和 | 61 | 加藤秀樹 |
| 54 | 昭和 | 42 | 松本令子 | 59 | 昭和 | 47 | 駒田由美子 | 76 | 平成 | 元年 | 朝倉 渡 |
| 54 | 昭和 | 42 | 森川礼子 | 59 | 昭和 | 47 | 松本茂外志 | 77 | 平成 | 2 | 増本純也 |
| 54 | 昭和 | 42 | 山口征司 | 59 | 昭和 | 47 | 三浦嘉統 | 78 | 平成 | 3 | 出崎克也 |
| 54 | 昭和 | 42 | 長谷見蓉子 | 59 | 昭和 | 47 | 三輪 保 | 81 | 平成 | 6 | 杉山 潔 |
| 54 | 昭和 | 42 | 小木曾周子 | 59 | 昭和 | 47 | 田代真一 | 82 | 平成 | 7 | 鑄木淳平 |
| 55 | 昭和 | 43 | 阿部 啓 | 59 | 昭和 | 47 | 清水善行 | 83 | 平成 | 8 | 市丸 一 |
| 55 | 昭和 | 43 | 石橋嘉夫 | 59 | 昭和 | 47 | 白龍義明 | 83 | 平成 | 8 | 葛西美恵 |
| 55 | 昭和 | 43 | 井上満子 | 59 | 昭和 | 47 | 村上香代子 | 83 | 平成 | 8 | 鑄木千里 |
| 55 | 昭和 | 43 | 井上みどり | 60 | 昭和 | 48 | 大西美知子 | 83 | 平成 | 8 | 鎌倉昌博 |
| 55 | 昭和 | 43 | 梅本美智子 | 60 | 昭和 | 48 | 千田豊子 | 84 | 平成 | 9 | 木村 徹 |
| 55 | 昭和 | 43 | 太田晴美 | 60 | 昭和 | 48 | 田中加代子 | 84 | 平成 | 9 | 膝附由香 |
| 55 | 昭和 | 43 | 奥村啓輔 | 60 | 昭和 | 48 | 田谷榮子 | 84 | 平成 | 9 | 平岡良隆 |
| 55 | 昭和 | 43 | 藏 禮子 | 60 | 昭和 | 48 | 山下晴義 | 85 | 平成 | 10 | 高瀬明子 |
| 55 | 昭和 | 43 | 鈴木 隆 | 60 | 昭和 | 48 | 加藤マリ子 | 85 | 平成 | 10 | 川邊香代 |
| 55 | 昭和 | 43 | 滝沢春美 | 60 | 昭和 | 48 | 中西憲幸 | 87 | 平成 | 12 | 谷村タケノリ |
| 55 | 昭和 | 43 | 檀原宏文 | 60 | 昭和 | 48 | 水野洋子 | | | | 旧職員 渡辺和夫 |
| 55 | 昭和 | 43 | 加藤忠昭 | 62 | 昭和 | 50 | 萩野洋子 | | | | 旧職員 中込和哉 |
| 55 | 昭和 | 43 | 柿崎直和 | 62 | 昭和 | 50 | 吉村真理子 | | | | |
| 55 | 昭和 | 43 | 布施米子 | 62 | 昭和 | 50 | 西山信右 | | | | |
| 55 | 昭和 | 43 | 松野 萌 | 63 | 昭和 | 51 | 萩野幸司 | | | | |
| 55 | 昭和 | 43 | 南 菖子 | 63 | 昭和 | 51 | 高橋裕子 | | | | |
| 55 | 昭和 | 43 | 牧野由紀子 | 63 | 昭和 | 51 | 堀尾真理子 | | | | |
| 56 | 昭和 | 44 | 加藤正子 | 64 | 昭和 | 52 | 坂口一夫 | | | | |

— 編集後記 —

東日本大震災から1年以上経っても、まだまだ復興への道のりは遠いのが現状です。今回の遠久朶には東北薬科大学の高畑先生に特別寄稿をいただきました。テレビで見ただけでは現地の状況を十分捉えることが難しいかもしれませんが、先生からのお便りで少しでも実感として感じていただければと思います。首都圏にも直下型大地震が予想されていることもあり、日頃から防災用品、家族間の連絡方法、帰宅ルート確認などの備えを万全にしておきましょう。なお、高畑先生は平成24年度日本薬学会学術貢献賞を受賞されました。おめでとうございます！

三金会も4年目に突入しました。会の雰囲気を井本前幹事長から詳しく、かつ面白く紹介していただきましたので、是非皆さん顔を出してください。

最後になりましたが、皆様の定期総会へのご出席を祈念しております。

(幹事長 ⑥、S54年卒 道見 茂樹)

— 首都圏支部年会費振込みのお願い —

支部の資産に黄色信号が点滅しています。

支部長挨拶にもありますが、今年年会費を1000円以上といたしましたので、この趣旨を汲んでいただき、同封いたしました郵便振込用紙にて、もしくは下記口座へ平成24年度首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

当会は他に収入がなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを、是非ご理解賜りたいと存じます。なお、会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願い申し上げます。

銀行名：北陸銀行 新宿支店

口座名：富山薬窓会首都圏支部

口座番号：2552140

Eメールアドレス登録ご協力お願い

首都圏支部の限られた資産を末永く維持させるため、事務局からの「首都圏遠久朶」、「総会案内」の発送をこれまでの郵便利用から可能な限りEメール利用に切り替えて経費節減することを幹事会で計画しています。また、会員からの「総会出欠返事」、「100字通信」の連絡も同様です。

つきましてはEメールアドレスをお持ちの方は是非事務局に連絡いただきますようお願いいたします。卒業回、卒業年、氏名、メールアドレスをあわせて事務局(以下のアドレス)宛お送りください。ご協力よろしくお願いいたします。

富山薬窓会首都圏支部事務局

アサヒ興業(株) 宇田川：uda@pop-asahi.co.jp

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

なお、総会当日もEメールアドレスの登録を受け付けます。

